

◆ 第一回 昭和十一年慰霊祭の時

前宮内大臣・田中光顕閣下の講話

明治維新の際、佐幕派にして戦没したる者のため碑が建てられて本日その慰霊祭を行うと言う談を聞いて、私は本日此処に来たものであります。

さて、明治戊辰の際に於いて水戸藩士が二つに分れ、一方は天狗派と称し一方は諸生派と称して互いに相軋りその果ては多々数のあたら武士が斃れたのであります。この事は水戸にとつて誠に遺憾の極みでありました。それが水戸では今日「昭和十一年」に至るまで根に葉に思っていて何かにつけても溝が出来る様になることがあると言うのは実に心外に存ずる次第であります。

然るに今回佐幕派即諸生派の為に碑が建てられてその英霊を慰むるに至ったことは洵に結構なことで私は衷心から大いに喜んで居ります。昔、鹿児島島津公は朝鮮と兵火を交えた時、朝鮮人も大いに殺されたし又我国の者も戦死した者が少なくなかったが、島津公はこの時敵味方の区別なくこれを弔い祠を建てその霊を祀ったと言うことであります。一旦死没したる以上は神に帰するものであれば仮令敵であろうとも当然その霊を祀るべきものだと思います。それに当水戸藩における天狗諸生の両派はほんの兄弟とも言うべきものであって、一方は勤皇党と称するも、左幕派は又数百年間禄を食んで居った、その藩主又は幕府の為に忠を尽くすべく生命を投げ出して戦った者であった。各其主義は異なるもお上に対し忠誠の精神に於いては敢えて差あるものにあらざるべく決して自分一人の為、又利己的に出たものでは寸毫もないのでありますればその純潔なる精神は洵に天晴れなるものがあると私は思うのであります。然るに、一方天狗派の者に対しては碑を建て塔を設けてその英霊を崇め、一方の諸生派の英霊に対しては顧みないと言うのでは片手落ちの感がありますが、今回この地に諸生派の英霊を鎮めたのは洵に喜ばしい次第であります。

要之戊辰の際に於ける水戸藩のごたごたは全く兄弟喧嘩の様なものでありますのですから今日は両派の英霊が地下に於いて互いに握手をして居ることを思えば私は甚だ喜びの情に堪えません。私はこれを持って一言皆様に御挨拶といたします。